

支部だより
北信越支部

北信越支部の主催および共催事業の報告です。

< 報告 >

行事名 :新潟地区「積雪調査法講習会」

日 時 :2月23日(土)9:00~15:30

場 所 :(独)防災科学技術研究所長岡雪氷防災研究所
(長岡市栖吉町前山 187-16)

講 師 :遠藤八十一・竹内由香里(森林総研),和泉
薫(新潟大・災害研),佐藤和秀(長岡高
専),納口恭明・石坂雅昭(防災科研),河
島克久(鉄道総研),田村盛彰(田村雪氷
計測研)

参加者 :18名(受講者)

2002年2月23日(土)新潟地区「積雪調査法講習会」を長岡雪氷防災研究所で実施した。暖冬で実習に必要な積雪深の確保が危ぶまれたが、ザラメ雪ながら50cmの積雪、小雨の中で無事実施することができた。午前は積雪の測定法・機器の取り扱いなどに関する講義と所内見学。午後の野外実習は積雪断面観測、含水率計測、硬度、雪崩ビーコンの扱いなどを実施した。

受講者は総数18名、内訳は大学院生6名、一般11名、正会員1名であった。受講者の居住地域は、新潟県内15名、石川県2名、岐阜県1名であった。職業別では、学生、会社員、建設業、コンサルタント、行政、高校教諭など多岐にわたった。

終了後の受講者の感想では、従来やってきた積雪深・降雪深の計測から脱皮して積雪内部に興味・関心を抱いて参加し、満足した講習だったとの報告があった。また、高校地学の自由研究の課題として最適であったとの感想もあった。

1990年冬の講習会以来、受講者数に定員制を敷いてから修了者数は184名に達した。

この講習会の受講者数は安定しており、今後も持続して実施できるものとする。尚、今回の講師・幹事団の氏名は以下の通りである(敬称略)。ご多忙の中の奉仕活動、大変ありがとうございました。

講師・幹事団 遠藤八十一,和泉 薫,佐藤和秀,
納口恭明,河島克久,竹内由香里,石坂雅昭,田村
盛彰

(北信越支部理事・講習会担当 田村盛彰 記)

< 報告 >

行事名 :新潟・長野地区見学会

日 時 :2月20日(水)13:30~

場 所 :JR東日本近江消雪基地(新潟市近江字上
259)

参加者 :17名

消雪施設見学会報告

北信越支部では平成14年2月20日に上越新幹線の消雪基地の見学会を実施した。上越新幹線には31カ所の消雪基地があり、75kmの延長を融雪している。見学したのは、新潟駅に近い近江消雪基地である。この基地内ではボイラーで水を暖め、降雪時に新幹線の軌道内に送水し散布するシステムが稼働している。1時間あたり1リットル/m²の水を7~14度まで暖めるため、灯油を3600リットル燃やすそうである。

見学会には、遠くは東京からの学生も含め17名の参加があった。参加者は持参のヘルメットをかぶり、JRの方の案内で施設内を見学し、ポイントでは次々と質問を浴びせていた。当日は雪は降らなかったが、見学会のために散水開始まで模擬的に稼働していただいた。施設内は加熱器や送水ポンプの音で声が聞こえない状態で、臨場感あふれた体験ができた。

JR東日本様には、新潟支社機械技術センター渡辺邦彦様はじめ多くの方にお世話になりました。御礼申し上げます。

(株)アルゴス雪氷技術センター 上石勲 記)



図1 加熱器の上に立つ



図 2 コントロール室で熱心に説明を聞く

< 報告 >

行事名 :第 7 回全国学生のための信州雪崩講習会

日 程 :3 月 5 日 (火)~6 日 (水)

場 所 :長野県小谷村柵池高原スキー場周辺

講 師 :新田隆三 (信州大学農学部教授)

参加者 :22 名 (受講者)

備 考 :信州大学演習林研究室主催 ,(社)日本雪氷
学会北信越支部共催

第 7 回全国学生のための信州雪崩講習会 (主催・信州大学演習林研究室,共催・(社)日本雪氷学会北信越支部)が 3 月 5 日,6 日,長野県小谷村の柵池高原スキー場周辺で開催されました。同研究室の新田隆三教授を講師に受講者 22 人,研究室のメンバーを含む約 30 人の講習会となりました。

集まったのはテレマーク,山スキー,スノーボード,冬山登山など雪のフィールドで活動する学生さんやスキー愛好者,プロの山岳ガイドの方々。

1 日目午後,集合してすぐにスキー場最終リフトから宿泊地となる早稲田大学のヒュッテへ移動です。雪道を歩きながらも時々立ち止まり,新田先生による過去の雪崩跡や樹木の解説が始まりました。

ゆっくり歩いて約 40 分で,標高 1700 メートルにあるヒュッテに到着。六角形の形を残したままの大きなあられ (直径 5~7 ミリ)が降ってきて,手袋にのせて観察しながら雪の結晶や気象の話に聞き入りました。埋没体験,ゾンデ棒の使い方の講習後は,ヒュッテに入り,約二時間の机上講習 (雪崩の基礎知識や積雪の見方)でした。

2 日目朝は前夜からの雨が降っていましたが,9 時ご

る雪になり、ヒュッテ周辺での野外講習ができました。積雪断面観察、弱層テスト、最後の総合捜索訓練では、7人が雪崩に埋まったと想定し、受講者が役割を決めてビーコン、ゾンデ棒、スコップを使い、救出(埋めたビーコンとザックを捜す)訓練をしました。「急いで!」「ゾンデ隊ライン組んで」など声を掛け合い、組織レスキューの方法を経験できたようです。

受講後、「雪と地形だけでなく、木の話も面白く、雪崩に対する見方が広がった」「新しいことを学んでこのような講習に参加する若い人たちに期待したい」などと感想が寄せられました。所属や年齢、経験も違う人たちが集まって講習会が開けたことは、知識や技術の習得だけでなく情報交換、ネットワークをつくるという意味においても大変有意義だったと思います。

(信州大学農学部 吉田由季子 記)



図3 雪層断面の説明をする新田先生



図4 ゾンデーレン

(北信越支部編集担当幹事 竹井巖 編集)